ヒルターフィンゲンに1941年に建設された歩兵の要塞。窓もベランダも愛情を込めて描かれた、牧歌的装い。ファルシェ・シャレーの名作。

牧歌的シャレーに隠された
もうひとつのスイス

FALSCHE CHALETS

写真家クリスティアン・シュヴァーガーは、ある日、妻とピクニックをしていて奇妙な建物の存在に気づいた。山岳地帯ののどかな田園の斜面に一軒のシャレーが建っているのだが、その奥行きが妙に浅い。近寄ってよく見れば、ドアも窓も何とだまし絵。ファルシェ・シャレー(＝贋物の山小屋)だったのだ。調査をはじめると、スイス軍のバンカー(兵器貯蔵庫)であることが判明した。

クリスティアンはその後取り憑かれたように、ファルシェ・シャレーを探し、100軒以上を写真に収めて展覧会を開く。

それにしても、なぜこんなに手の込んだバンカーを建てる必要があったのか。

「ファルシェ・シャレーは第二次大戦中から冷戦中にかけてつくられています。終戦後には、観光のため景観を整えようと、バンカーをシャレー仕立てに化粧もしたようです。しかし何より冷戦中に、スパイの目からカモフラージュするためだったのでは……」

近所の住人でさえ贋物であることに気づかなかったというから、ファルシェ・シャレーは見事にその使命を果たしていた訳だ。

「でも僕は、スイス軍の歴史に興味があるわけじゃない。目的のシリアスさに反して、シャレーの窓やカーテンなどをペイントした軍の人々の仕事に、愛情さえ感じられるところに惹かれたのです」。そしてクリスティアンはこう付け加える。「真実は、しばしば見かけの姿の裏に隠されているのです」

ファルシュ・シャレーは危機の時代に、スイス人がこうあってほしいと願った祖国の風景なのかも知れない。

シャレーばかりでなく、こうした牛舎を装った砲兵の要塞も多い。1941年、エンネットベルグに建設された例。

© Christian Schwager「Falsche Chalets」より

右・ガンベレンの歩兵用ファルシェ・シャレー。現在は廃屋風になって、描かれた窓辺にツタが絡まっているのがリアルだ。中・グランドに建設されたヴィラ風の要塞。現在はガイドつきで案内されていることもあってメンテナンス状態が非常によい。左・みごとに、スイスらしい山岳地帯の牛舎を装って見せた歩兵用要塞。1937年建設。

Christian Schwager
写真家

1966年生まれ。在ヴィンタートゥール。一見平凡な風景を被写体にしながら、目に見えない記憶を浮き彫りにする作品などを発表。写真集に『Falsche Chalets』(独語・Edition Patrick Frey, 2004)がある。
www.christianschwager.ch